

研究 主題	認め合い、支え合う学級生活を築く児童の育成 一学級活動における、自己肯定感を高める振り返りと、他者理解を深める話し合い活動を通して—
----------	--

第4学年特別活動学習指導案

指導月日 令和7年10月24日（金）

所属校名 川崎町立富岡小学校

氏名 和田 惇平

1 題材 「係活動をステップアップしよう！」

学級活動(3) イ 社会参画意識の醸成や働くことの意義の理解

2 題材について

(1) 児童の実態 [第4学年10名]

4月当初は、異学年との関わり方に不安が見られたが、どの児童も学年の役割を意識した目標を立て異学年交流の実践を行った。一方で、学級内の固定化された人間関係に課題が見られ、現状を把握するために5月に意識調査（表1）を行った。意識調査の結果（表2）から、自分に対する自信を十分に持てない傾向にあることが分かった。また、失敗に対する不安を抱えている児童が複数いることも分かった。そこで6月に「授業の不安を解決しよう大作戦」と題材を設定し実践を行った。児童それぞれが授業においての人間関係に関する本音を自己開示したことで、一人一人が抱えている不安や苦手なことに気づき、その思いに寄り添った目標を立て、実践を行うことができた。学習後には、「前より、分からないことが友達に聞けるようになった」「困ったときに誰かが助けてくれるから安心する」「友達が何に不安を感じているか知れてよかった」などの発言や、8月の意識調査の結果（表2）からも仲間が理解してくれることで、心理的安全性が高まり教科の本来のねらいに迫れることが分かった。

表1 自己肯定感と他者理解に関する意識調査の質問内容

自己肯定感を測る質問（5問）	
Q1	わたしは、自分のことが好きです。
Q2	わたしには、良いところがたくさんあると思います。
Q3	難しいことにも、最後まで頑張って挑戦したいです。
Q4	失敗しても、またやってみようという気持ちになります。
Q5	新しいことに、一人で挑戦するのはわくわくします。
他者理解を測る質問（7問）	
Q6	クラスの人が話しているとき、最後までしっかり聴こうと心掛けています。
Q7	クラスの人が困っているとき、なにかできることはないかな、と思います。
Q8	クラスの人が失敗して悲しそうにしていたら、はげましたいと思います。
Q9	わたしと違う考えのクラスの人意見も、聴いてみたいと思います。
Q10	みんなで話し合うとき、違う意見がでて、それはそれでいいと思います。
Q11	クラスの人がなぜそう考えるのか、そのわけを知りたいと思います。
Q12	クラスの人が「手伝って」と言ってきたら、できるかぎり手伝ってあげたい。

表2 自己肯定感と他者理解に関する意識調査結果

【意識調査実施日：①5月20日

②8月26日 n=10

※4件法（1点から4点）で回答】

	自己肯定感を測る質問（5問）	他者理解を図る質問（7問）
5月	学級平均 14.6点 (20点中)	学級平均 22.3点 (28点中)
8月	学級平均 16.8点 (20点中)	学級平均 24.8点 (28点中)
	+2P	+2.5P

本題材である係活動については、自己の役割を自覚して、責任を持って活動に取り組んでほしいという教師の願いから、4月から1人1つの係で活動を行うことに取り組んできた。実際に児童は、どのような係活動を行えば、学級のためになるかをじっくりと考えながら活動してきた。しかし、互いの活動の一面を見て、「あの子は係活動をさぼっている」など、その行動の内面にある理由を十分に捉えず、指摘してしまう場面も見られた。そのため、指摘を受けた児童は、自信が持てず不安を抱えながら係活動に取り組んだり、困ったときに相談

できずに、係活動が停滞してしまったりすることもあった。夏休み前の係活動についての振り返りの際には、多くの児童が「満足する係活動が行えなかった」との反省を行った。その理由として、「級

友にどのように思われているか心配だった」「困ったときに相談できなかった」などの声が多く聞かれた。学級のためや誰かのためになりたいという意欲の高さは児童の発言や行動から見られ、係活動の目的についても理解しているが、級友との関わり合いによる不安から、係活動に主体的に取り組むことができない一面も見られる。

(2) 題材設定の理由

本題材は、学級活動(3)「イ 社会参画意識の醸成や働くことの意義の理解」に関わり、学級の一員として自らの役割を自覚し、その役割を果たすことの意味や大切さについて考え、友達と協働しながら自主的に実践しようとする児童の育成をねらいとしている。これは、志教育との関連で年間計画に位置付けられた題材であり、学級の一員として自己の成長を客観的に捉え、自らの目標を決めて実践することにより、来年度、高学年の一員として学校生活をよりよくするために参画する態度や、将来にわたる社会参画意識の醸成につなげることを意図している。

本題材では、係活動を取り上げ、社会参画意識の醸成につなげていきたい。そのためには、係活動を単なる当番や作業で終わらせず、自分たちの生活や学校をより良くするものとして捉え、課題を自分自身の問題として考えることが求められる。また、課題解決や改善のために、他者からの意見を受け入れる態度を育み、多様な価値観を認め、協力して目標を達成する力も求められる。

しかし、前段でも述べたとおり本学級では、自分の行いや言動が他者にどのように思われているか不安に感じている児童が多く、相手の状況を深く捉えた声掛けや、協力や助言など、他者と協働することに課題があるため主体的な活動を行うことができていない。この課題を改善するためには、何のために係活動を行うのか、係活動に責任を持ってやり遂げるとどうなるのか、協働することがなぜ必要なのかということをお話合いや実践の振り返りを通して実感を伴わせながら理解を深めさせたい。この視点を持って他者理解を深めることで、相手の状況を深く捉えた声掛けや改善のための協力や助言が行えるようになることを考える。また、活動の始めにそれぞれが自己開示することで他者理解につながり、不安なく活動に取り組めるようになることを考える。

このような実践を通して得られた個々人の成果をたたえ合うことで、協働することの意義を深く実感し、他者を尊重することにもつながる。また、互いを深く理解し支え合うことで、社会参画意識が高まり、自己の役割についても理解が深まったりすることが考えられる。さらに、成果をより実感できるようにするために、活動時の記録による振り返りや、児童同士で努力や成長を認め合う活動の設定を行っていく。これらのことを相互に関連させながら行い、相手を尊重しながら互いの活動を支え合うことで、学級活動(3)イのねらいに迫っていく。

3 研究主題との関連

本研究は、児童一人一人の自己肯定感を高め、多様な価値観を理解し合うことを通して、互いに認め合い、支え合う学級生活を築くことのできる児童の育成を目指すものである。「認め合う」とは、単に他者の良さに気付くことではなく、他者が持つ課題や不安等にも意識を向け、理解することであると捉える。「支え合う」とは、その相互理解の基、共に課題を乗り越えようとすることであると捉える。また、自己肯定感の高さは、他者を肯定的に捉えるための土台となり、他者理解を深める上で重要な役割を果たすと考える。さらに、深い他者理解は、共感や尊重を生み出し、支え合う関係性を構築する上で不可欠である。これらの要素が相互に作用し合うことで、認め合い、支え合う豊かな学級生活を実現する児童の育成につながると考える。このような児童の育成を目指すために、以下のような視点に基づいて手立てを講じ、授業実践を行う。

(1) 自己肯定感を高める振り返りに関わる工夫

振り返りに関わる活動を通して自己肯定感を高めることで、児童の社会参画意識が向上すると考える。そこで3つの手立てを講じる。

① 課題を自分自身の問題として捉え、自己を高める目標設定の工夫

教師が児童の普段の生活を見取り、人間関係に起因する課題を取り上げ、課題解決に向けた目標設定→実践→振り返り→目標再設定という活動サイクルを回すことで課題を自分自身の問題として捉えられるようにする。また、振り返りでは他者との話合いを通して自己の課題に気付かせることで、自己を深く見詰め直すとともに、自己を成長させる目標設定へと導く。さらに成果や課題について記録できるワークシート（9資料等(1)）を使い、目に入るところに掲示することで常に課題が意識できるようにする。

② 多角的に自己の成長に気付ける工夫

「いいねカード」（9資料等(2)）を活用し、互いの成長や努力への気付きを書きためておいたものを、振り返り時に渡し合うことで、自己の成長に気付けるようにする。

③ 児童の可能性への視野を広げる工夫

学習過程の「さぐる」段階では、自分たちの憧れであり目指す姿である、5・6年生の係活動に関する意識調査や動画を用いることで可能性への視野を広げ、課題解決方法を広く探れるようにする。

(2) 多様な価値観や考えを認め合う話し合い活動の工夫

多様な価値観や考えを認め合える話し合いの工夫を行うことで、仲間と協働し、学級の一員として主体的に考えて行動できるようになると考える。そのための手立てを以下に2つ示す。

① 多様な価値観を引き出すための工夫

ア 児童たちの固定化された価値観を揺さぶる補助発問の工夫

話し合いの前には、可能な限り課題や困り感について自己開示する。しかし、児童は、これまで培ってきた価値観を基に生活しているため、自分をふかんしながら自己開示することが難しい。そこで、自己の内面を深く捉えられるようにし、新しい価値観に気付かせるために以下のような補助発問を行う。

- ・「本当に・・・？」→物事の本質に迫る発問。
- ・「それをしたら、どう変わるだろうか？」→行動の必要性に迫る発問。
- ・「あなただったら・・・？」→立場を変えて考えさせる発問。
- ・「どうして・・・？」→行動や考えに隠された理由を考えさせる発問。
- ・「みんな同じなのだろうか？」→多様な考えがあるということに気付かせる発問。

このような補助発問を意図的に行うが、多用し過ぎると児童を不安にさせてしまうため注意して行う。

イ 児童同士で問い返しをするための指導の工夫

教師だけではなく児童同士でも他者の考えの理由や背景に迫っていけるようにすることは、協働して役割を果たすことに必要不可欠である。そこで、問い返しが他者の考えを深く理解するために必要だということを見童に伝えた上で、見童にも簡単な問い返しを指導する。主に「どうしてそう思うの？」（理由に迫る）「それって〇〇ってこと？」（内容の確認）と問い返すことで、他者の考えに深く迫れることや、他者自身も考えの真意に気付くことができるようにする。

② 安心して考えを伝え合うための指導の工夫

考えを認め合う基盤として、安心して話し合える環境が大切である。また、そのような環境をみんなで築いていくことにより、他者理解だけではなく他者との対話を通して自己理解も深まると考える。そこで、以下のような「話し方や聞き方」を指導していく。また、教師のフィードバックを行うことでその効果を実感できるようにする。

- ・意見を伝えるときは、相手の気持ちを考えて伝える。
- ・良いなと思ったことはすぐに伝える。
- ・多くの人が意見を言えるようにする。
- ・アドバイスをするときには、理由も付ける。

4 指導のねらい

- 学級の一員として自らの役割を自覚し、その役割を果たすことの意味や大切さについて理解する。
- 他者理解を深め、友達と協働しながら自主的に実践しようとする態度を育む。

5 本題材における評価の観点と評価規準

多様な他者と協働するために必要な知識・技能	集団や社会をよりよくするための思考・判断・表現	主体的に集団活動や生活をよりよくしようとする態度
係活動における自己の役割を自覚して協働することの意義を理解している。 自己や学級の課題を見だし、解決のための話し合いの仕方を身に付けている。	多様な学級の友達と協働して、自らの役割を自覚し、よりよい学級づくりのための課題について話し合い、意思決定して実践や振り返りをしている。	学級の一員として、これまでの自分を振り返り、なりたい自分に向けて目標を持って努力したり、他者のことを考えたりして、よりよい学級にしようとしている。

6 事前の指導

期日	活動の場	活動の内容	指導上の留意点	目指す児童の姿と評価方法
9月10日 (水)	朝の時間 (学級全員)	・係活動に関する意識調査を行う。	・意識調査を行う意義を、児童の実態に応じて説明する。	【主体的に学習に取り組む態度】 学級の一員として、これまでの自分を振り返り、なりたい自分に向けて目標を持って努力したり、他者のことを考えたりして、よりよい学級にしようとしている。 (観察)
9月16日 (火) ～ 9月19日 (金)	朝の時間 (学級全員)	・係に関する意識調査の結果を提示し、課題意識を持つ。 ・係活動の意義やねらいを確認する。 ・5・6年生の係活動に関する意識調査から係活動を通して「なりたい自分」を探る。 ・取り組みたい目標を立てる。	・意識調査の結果を視覚的に捉えられるように提示する。 ・ワークシートを活用し「なりたい自分」とそのために「頑張ること」を記入する。	【知識・技能】 係活動における自己の役割を自覚して協働することの意義を理解している。 自己や学級の課題を見だし、解決のための話合いの仕方を身に付けている。 (シート・観察)
9月22日 (月) ～ 10月10日 (金)	係活動時 (個人ごと) (前半)	・それぞれ立てた目標を基に実践を行う。 ・実践の記録を蓄積する。 ・定期的に「いいねカード」を記入する。	・それぞれが立てた目標は、学級に掲示し見合えるようにする。 ・記録による振り返りは、教師が見取り、フィードバックする。 ・「いいねカード」を活用し、互いの実践を認め合えるようにする。全員がもらうことの大切さについて確認し、10月24日にみんなが受け取れるようにする。	【思考・判断・表現】 多様な学級の友達と協働して、自らの役割を自覚し、よりよい学級づくりのための課題について話し合ったり、意思決定したりして実践や振り返りをしている。 (シート・録画)
10月10日 (金)	朝の時間 (学級全員)	・これまでの係活動の取組を全体で共有する。 ・話合いを通して、新たな目標を立てる。	・ワークシートの「なりたい自分」にどれだけ近付けたかを自己評価するために、「達成メーター」に色を塗らせる。 ・話合いを通して目標を修正する。	【知識・技能】 係活動における自己の役割を自覚して協働することの意義を理解している。 自己や学級の課題を見だし、解

			・課題を解決する方法について話し合いを通して決める。	決のための話し合いの仕方を身に付けている。 (シート・観察)
10月16日 (木) ～ 10月23日 (木)	活動時 (個人ごと) (後半)	前半同様	前半同様	前半同様

7 本時の指導と児童の活動

(1) 本時のねらい

係活動がよりよくなるための課題を見出し、解決のために話し合い、解決方法を意思決定している
【思考力・判断力・表現力】

(2) 本時の指導について

児童は本時まで、身近な憧れである5・6年生の係活動に関する意識調査の結果から可能性への気づきを広げてきた。そして、係活動を通してなりたい自分の姿と、その実現のために頑張りたいことについて、児童同士で話し合いを行ってきた。また、係活動の実践途中には、目標に向けた実践の充実具合を示す達成度を「達成メーター」に色を塗って作業を行ってきた。さらに、その達成メーターを見合いながら話し合い、目標の修正等も行ってきた。このような活動経過を踏まえ、本時は、以下のような指導を講じていく。

① 「つかむ」段階

「いいねカード」を渡し合い、友達のコメントから自己の成長や努力に気づき、更なる実践意欲を高める。また、互いに認め合うことで、温かい雰囲気の中で本時に臨めるようにする。活動を振り返る時には、なりたい自分の姿の達成度をメーターを用いて評価することで、なりたい自分という目標までの距離を捉えられるようにする。さらに、教師や児童の問い返しにより課題を深く探り、自分自身の問題として捉えられるようにする。

② 「さぐる」段階

5・6年生のインタビュー動画（事前活動で用いたものとは別な動画）を見ることで、課題へのヒントを探れるようにする。

③ 「見付ける」段階

小グループでの話し合いを通して認め合ったり、助言し合ったりすることで、協働の意義を深く理解させるとともに、活動に取り組む意欲を高めさせる。

④ 「決める」段階

全員が目標を発表することで、改めてみんなで協力して学級を作っていくという意識を高めさせる。

⑤ 「価値付ける」段階

教師の助言を基に児童同士では気づけなかった価値付けを行う。

(3) 本時の展開

	学習活動 発問等 (○) 予想される児童の反応 (・)	指導上の留意点 (○) と評価 (☆)	資料等 準備物
つかむ (12分)	1 本時のめあてを知る。 係活動を振り返りステップアップしよう！ 2 「いいねカード」を送り合う。 ○どんなことが書かれていてうれしかったですか？ ・誰にも気付かれなかったことに気付いてくれたこと。 ・一生懸命に考えたイベントが楽	○本時の流れを示し、見通しを持たせる。 ○これまで友達の努力や成長について書きためていた「いいねカード」を渡し、読み合い、自分では気づけなかった成長や努力を実感し、互いに認め合うことで本時の意欲を高める。 ○どの児童も「いいねカード」がもらえるように、実践段階から書きためておく。	いいねカード ワークシート 付箋

	<p>しかつたと言ってくれたこと。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前とは違って、責任を持ってやっていたと書かれていたこと。 <p>3 これまでの実践を振り返り、課題を把握する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○なりたい自分にどれだけ近づけたか、ワークシートの達成メーターを塗りましょう。理由も付箋に書いておきましょう。 ○メーターを塗った理由についてグループで話をしてみましょう。 	<ul style="list-style-type: none"> ○自己評価の理由について付箋に書き残しておくことで、最後まで自分が解決したい課題を明確にする。 ○みんなが安心して話せるように、ルールを提示する。（視点2②） ○児童同士で考えを深めるための工夫を提示する。（視点2①イ） 	
さぐる（10分）	<p>4 5・6年生のインタビュー動画からステップアップのヒントを探り、自分の考えを持つ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○インタビュー動画から自分の課題解決につながりそうなことを書きましょう。 ・だれかを楽しませるためには、みんなにアンケートを取っていたのがヒントになった。 ・みんなの時間を大切にするために、期限や約束を守るというのを聞いてやってみたいと思った。 ・困ったときには、友達に相談してみようと思った。 	<ul style="list-style-type: none"> ○係活動に関する意識調査を基に、5・6年児童にインタビューした動画を見ることで課題解決のためのヒントを得る。幅広い考えに触れられるように、動画を厳選する。 ○課題解決のヒントが見付けられない児童は、このあとの話合いの時に見付ければ良いことを伝える。 ○動画視聴後にヒントになりそうなことをホワイトボードにメモするようにする。 	インタビュー動画 ホワイトボード
見付ける（10分）	<p>5 グループでの話合い活動を通して、自分を取り組みたい目標を見付ける。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○「さぐる」の時に、メモしたことを伝え合い、互いに「どうして？」等、質問し合うことで考えを深められるようにする。 ○考えたことや気付いたことは、追加でホワイトボードにメモするようにする。 ○「それが解決できたらどうなる？」と問うことで、課題解決の必要性を実感させる。 	ホワイトボード
決める（10分）	<p>6 取り組みたい目標をワークシートにまとめ発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○これから頑張っていきたいことを書きましょう。 ○書いたことを発表しましょう。 	<ul style="list-style-type: none"> ○決めることに迷っている児童には、個別に支援し自己決定を促す。 ○発表の際には、アドバイスをもらった友達の名前を言うようにすることで、友達の力になれたと実感させる。 <p>☆話合い活動を通して活動を振り返り、よりよい学級づくりのために、係活動を見直すという課題について話し合い、意思決定している。【思・判・表】</p>	ホワイトボード ワークシート
価値付ける（3分）	<p>7 教師によるフィードバックを行う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○最後には、教師によるフィードバックを行い、児童が気付かなかった価値付けをし、今後の実践意欲を高める。 	

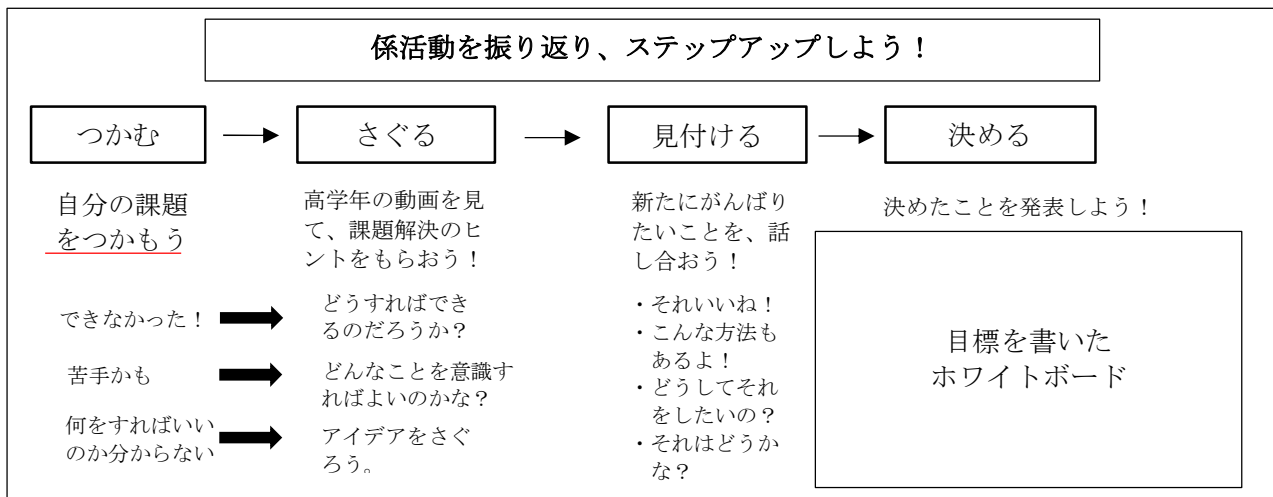
(4) 本時の評価

評価の観点	十分満足できる	概ね満足できる	努力を要する児童への手立て
係活動がよりよくなるための課題を見出し、解決のために話し合い、解決方法を意思決定している。【思・判・表】	自身の課題について深く考え、解決のために進んで話し合いに参加し、他者の意見を取り入れながら解決方法を意思決定しようとしている。	自身の課題について考え、解決のために話し合いに参加し、他者の意見を取り入れながら解決方法を意思決定しようとしている。	自身の課題について考えようとし、解決のために話し合いに参加し、自分の考えを伝えたり、他者の考えを聞こうとしたりしている。 ⇒グループの仲間から考えをもらうように助言することで自己決定を支援する。

(5) 準備物

・インタビュー動画 ・ワークシート ・タブレット端末 ・ホワイトボード

(6) 板書計画



8 事後の指導

期日	活動の場	活動の内容	指導上の留意点	目指す児童の姿と評価方法
10月27日（月） ～ 11月27日（木）	係活動時（個人ごと） （前半）	<ul style="list-style-type: none"> ・目標を基に実践を行う。 ・実践の記録を蓄積する。 ・定期的に「いいねカード」を記入し渡し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・それぞれが立てた目標や記録は、学級に掲示し見合えるようにする。 ・「いいねカード」を活用し、互いの実践を認め合えるようにする。 	
11月28日（金）	朝の時間（学級全員）	<ul style="list-style-type: none"> ・中間の振り返りをする。 ・新たな目標を立てる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートの「なりたい自分」にどれだけ近付けたかを自己評価するために、「達成メーター」に色を塗らせる。 ・話し合いを通して、目標を修正する。 	<p>【知識・技能】</p> <p>係活動における自己の役割を自覚して協働することの意義を理解している。</p> <p>自己や学級の課題を見だし、解決のための話し合いの仕方を身に付け</p>

				ている。 (シート・観察)
12月1日 (月) ～ 12月18日 (木)	係活動時 (個人ごと) (後半)	前半同様	前半同様	前半同様
12月19日 (金)	朝の時間	<ul style="list-style-type: none"> ・係活動の総振り返りを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・係活動のねらいが達成できたかどうかを話し合う。 ・ワークシートの「なりたい自分」にどれだけ近付けたかを自己評価するために、「達成メーター」に色を塗らせる。 ・次の係活動の取り組み方について話し合う。 ・学びの価値付けを行う。 	

10 係活動一覧表

係活動名	活動内容
プレゼント係	学級で活躍した人にプレゼントを渡すことで学級を盛り上げる。
キャラクター係	学級に季節感のあるキャラクターを飾ることで、学級を明るくする。
生き物係	生き物のお世話体験を通して、生き物のことを詳しく紹介したり、みんなに癒しを提供したりする。
植物係	育てた野菜や花をみんなに配ることで興味を持ってもらう。
サポート係	困っている人を助ける。
生き物クイズ係	生き物をもっとよく知ってもらえるようなクイズを考える。また、クイズを通して学級を盛り上げる。
豆知識クイズ係	みんなが知らなかったことをクイズにすることで楽しみながら知識を広げていく。
ポスター係	学級で頑張っている人をポスターにして広めることで、頑張っている人を応援する。
励まし係	落ち込んでいる人や悩んでいる人を励ましたり、みんなが楽しめる活動を考えたりする。
お楽しみ係	クラスの仲を深めるために、遊びを考える。